

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年10月1日

事業所名 児童発達支援センターのぎ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2 職員の配置数は適切である	○			
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			個々の発達に合わせ、生活の場面ごとにカードやタイムタイマーなどを使用しわかりやすく支援・療育を行っています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		個々のプライバシーが守られるよう適宜個室を利用したり、パーテーションを使用して排泄、更衣等を行っています。	今後も衛生面や安全面に十分配慮し、心地よく過ごせる環境を整えるよう努めます。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		朝礼・職員会・計画書作成会議等で、振り返りを行い、気づき等を職員間で共有するようにしています。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			近年、コロナ感染拡大防止のため、保護者の方の入室を控えていましたが、面談や参観を通して、率直なご意見をいただく事で、業務改善につなげていきます。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		実施について検討します。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		こども園との一体的な研修計画により、外部研修、内部研修を行っています。	職員の専門性や意識を高めるために、各種研修会に可能な限り参加するようにしています。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		全職種の職員で月案・週案を立て、計画的に療育を行っています。	保育教諭・作業療法士等、専門分野での意見交換をチーム全体でするようにしています。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			利用児の特性に合わせて運動遊びや手作り玩具を工夫し、楽しんで活動できるようにしています。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援の開始と終了での職員間の意思疎通や、実施後気になった事などを共有するようにしています。	始業前には毎日朝礼を行い、当日の活動や打ち合わせをしています。また、日々振り返りを行い、気づきや課題などを共有し、次につながるようにしています。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		療育日誌や写真、動画の記録から子どもの姿を振り返りながら日々の支援に活かしています。	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○				

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者と子の担当者が出席しています。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		子の在籍している所園に向き、見学・情報交換等を積極的に行い、連携を図っています。	
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				*重症心身障害児 対応なし
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				*重症心身障害児 対応なし
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		利用児の在籍園にカンファレンスへの参加を依頼し、個別支援計画に沿った情報共有をしています。	
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		就学前には、関係機関が集まり、移行支援会議を行っています。	
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○	同法人の児童発達支援センターとの連携を取っています。	
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		併設されているのぎこども園と日常的に交流を持っている。	併設されているのぎこども園と日常的に交流を持つようにしている。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		特に参加を促された組織はない。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		降園の時に保護者にその日の様子を伝え、課題があると思われる場合は、保護者と話し合いながら支援を考えています。	
保護者への説明責任等	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		例年、ペアレントミーティングを開催していましたが、新型コロナウイルス予防のため近年は実施していませんでした。今後、実施できるように検討していきます。
	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時の重要事項説明等で丁寧に説明を行うようにしています。	
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		個々の支援計画に基づいて中間評価を行った上で支援内容を見直し、保護者への説明後、同意を頂くようにしています。	
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			保護者懇談や参観等で、保護者同士の連携がとれるように仲立ちとなっていきたいと思っています。
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		支援内容の相談や、家庭での困りごと等、できるだけ迅速に対応するようにしています。	
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		のぎ施設での「法人だよりのぎ」と「ばなな組だより」を発行しています。	
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	39 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っている		○	笹巻作りや餅つきなど、のぎこども園行事に地域の方を招待し、センター児童も一緒に参加、交流を予定していたが、新型コロナウイルス感染予防の為、実施なし。	実施したい。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		のぎこども園と一体的なマニュアルを策定し、不審者侵入訓練や避難訓練などを行っています。	
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		様々な災害を想定しながら、併設ののぎこども園と合同で、毎月1回避難訓練を実施し、広域避難場所の県立松江農林高校へも年に1度全員で避難しています。	個々の特性を把握した上で、全員が落ち着いて避難できるように職員で避難誘導するようにしています。
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			毎年、契約時に確認しています。
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		つわぶきクリニック医師への受診で除去食を確認し給食提供を行っています。	
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		のぎこども園とセンターのぎの合同職員会で、必ず共有しています。	ヒヤリハットをふまえ、同じことが繰り返されないように職員間で情報の共有をしています
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止研修には、毎回参加するようにしています。	できるだけ多くの職員が研修に参加し知識と意識を高めるようにしています。
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		一般的には、重要事項説明書で説明を行っているが、該当者がいる時は、医師の意見、診断に基づいて決定します。	